

## 2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 21 日

所属	政策情報学部	職名	准教授	氏名	吉羽 一之
研究課題	インフォグラフィックスにおける活字書体の伝達性と地域性の検証				
研究キーワード	グラフィックデザイン、 タイポグラフィ	当年度計画に対する 達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任 つかう責任	該当なし	該当なし	

## 1. 研究成果の概要

一昨年度より継続している防災、インフォグラフィックスをキーワードとした研究は新型コロナウイルス感染症による社会活動制限にて、現地調査など、計画通りに進行できなかったが、ゼミナールの活動として市川市消防局新規人材ポスターの制作依頼を受け、学生と共にポスターデザインに取り組んだ。この活動では 2021 年度に計画していた研究課題をふまえ、単なるデザインワークに留めることなく、消防局業務の見学や吏員の意識をヒアリングし、それらの調査や考察をふまえデザインの検討を進めた。消防局の見学では市川市東消防署にて、車両や資機材の説明を受け、市川市東消防署高谷出張所では消防艇に乗船し、活動内容についての説明を受けた。また、吏員の業務に対する意識について、対面での質問形式でヒアリングを行った。見学及び調査を行った後に、学生が提示するデザインを、これまで消防吏員に抱いていた印象とは別の視点で検証した。最終的には 5 案のポスターデザインを提案し、どれも高い評価を得て、4 案が採用となり、2022 年 4 月現在、市川市内の消防署に掲示されている。他方、2020 年度末に学会に提出した論文に対する査読審査をふまえ、改めて内容を精査するため、昭和初期の書籍本文の調査を行った。昭和初期は書籍の大量生産が始まった時期であり、この時代の調査は現在の書体の評価研究につながるものと考え。地域性をふまえたデザイン、そのデザインで用いる書体の評価に対する研究に引き続き取り組んでいきたい。

## 2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

## 【論文（査読あり）】

「昭和初期の書物本文組版についての考察—夏目漱石『吾輩は猫である』再刊本を中心に—」  
吉羽一之、単著、意匠学会『デザイン理論』79号、PP.1-14、2022年1月31日。

その他、実務として、公演案内（フライヤー、ポスター、パンフレット等）のデザインを担当。

## 3. 主な経費

研究及び制作のための PC、比較分析のためのフォントデータ、実践及び検証のためのソフト、及び印刷用資材の購入。その他、学会等の参加費。

## 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

意匠学会 広報役員

(本文は2ページ以内にまとめること)